

研究会を支える委員会と4つの部会



部会連絡委員会

部会間の情報共有を図り事業の調整を行います。

研究評価部会

自然共生工法のあり方や研究の進め方について指導・助言を行います。
自然共生および工法についての調査、研究を行います。
県土の基盤整備についての指導、助言を行います。
調査研究助成の審査を行います。

人材育成部会

会員や自然共生に携わる人材の育成を行います。
勉強会などの人材育成イベントの企画・開催を行います。
岐阜県自然工法管理士の自己研鑽の支援を行います。
会員への称号付与や創意工夫等表彰の選考を行います。

企画啓発部会

自然共生思想普及のための啓発事業の企画・開催を行います。
会員相互の情報交換・外部への情報発信を行います。
会報誌の発行を行います。
協賛・助成等の企画・審査を行います。

魚道研究部会

魚道の立地と機能向上に関する研究を行います。
魚道の機能評価の手法に関する研究を行います。
魚道の機能に関する調査とその支援を行います。
新たな魚道の開発研究を行います。

★ホームページでは…

○イベント情報、活動報告、研究会会則等を掲載し、会員専用ページを設置しています。

自然共生工法研究会のホームページ
<https://shizenkyousei.jp/>



★会報誌「自然との共生」の発行



研究会会員の状況

■ 会員内訳 (2020. 5. 31現在)

	法人会員	個人会員	合計
産業界	171	1,190	1,361
学 界	0	12	12
民 間	1	13	14
官 界	7	100	107
学 生	-	5	5
合計	179	1,320	1,499

■ 会員数の推移

	法人会員	個人会員	合計
H13(2001)	161	331	492
H14(2002)	325	652	977
H15(2003)	351	797	1,148
H16(2004)	358	1,115	1,473
H17(2005)	337	1,294	1,631
H18(2006)	320	1,376	1,696
H19(2007)	300	1,437	1,737
H20(2008)	270	1,447	1,717
H21(2009)	263	1,483	1,746
H22(2010)	248	1,442	1,690
H23(2011)	233	1,424	1,657
H24(2012)	223	1,418	1,641
H25(2013)	217	1,386	1,603
H26(2014)	207	1,383	1,590
H27(2015)	200	1,368	1,568
H28(2016)	196	1,350	1,546
H29(2017)	193	1,338	1,531
H30(2018)	183	1,328	1,511
R元(2019)	179	1,320	1,499

研究会ではこんな支援をしています

◆活動助成・創意工夫支援・自主研究支援

自然共生に関する「活動」「工夫」「研究」を支援するため、3つの制度を創設し、自然共生に取り組む方を応援します。

- ① 共催事業助成制度** 研究会に属する方の団体が開催する各種事業に10万円を上限に支援を行なっています。
- ② 創意工夫等表彰制度** 研究会員が自然共生に関する創意工夫及び地域貢献を実施し、その成果が認められた方に賞状と副賞3万円を上限に授与しています。
- ③ 調査研究助成事業** 県内で調査研究を実施しようとする研究会員に対し、調査研究費の一部を5万円を上限に助成を行なっています。

【 会員であれば、どなたでも申請することができます。 ※詳しくは、研究会ホームページをご覧ください。申請様式をダウンロードしていただくことができます。 】

◆岐阜県自然工法管理士を応援します。

岐阜県では、自然共生や環境保護活動に携わる県民の意識や知識の向上を図り、自然環境を保全するための人材の育成を目的に「岐阜県自然工法管理士」認定制度を実施しています。研究会は、自己研鑽のための勉強会や情報発信を行うことで、管理士の継続教育などを応援します。詳しくは、岐阜県の管理士認定事業ホームページをご覧ください。

研究会員募集中

本会の趣旨に賛同いただける方でしたら、どなたでも入会いただけます。

特典1 研究会主催の講演会、勉強会等に参加できます。

特典2 自然共生に関する最新情報をお届けします。

特典3 自然共生の活動を行なう仲間と情報交換の場が増えます。

特典4 自然共生に関する活動や研究を支援します。

特典5 岐阜県が認定する自然工法管理士の更新に役立ちます。

自然工法管理士の更新について
岐阜県自然工法管理士は自己研鑽として5年間に10単位を取得する必要があります。5年の間に本研究会に3年以上入会されると「5単位」が免除される特典があります。(法人をのぞく)

会費(6月から翌年5月まで)：個人会員 年間 3,000円(学生 1,200円)
法人会員 年間 10,000円

申し込み・問い合わせ先

岐阜県自然共生工法研究会

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6-52-18 ワークショップ24 4階
ソフトピアジャパンエリア内 公益財団法人 岐阜県建設研究センター内
電話・FAX 0584-811-1340 E-mail gifu-shizen@deluxe.ocn.ne.jp
URL <https://shizenkyousei.jp/>



○このパンフレットは岐阜県河川協会の協賛により発行しています。

2020年度版 岐阜県 自然共生工法研究会



令和元年度
「清流の国ぎふ」づくり
自然共生工法写真コンテスト
最優秀賞
荒城川は水辺と植生が回復しました
(高山市 国府町東門前地内 荒城川)
(写真上：現在 中左：復旧直後 中右：1年後 下：被災直後)

ごあいさつ



会長 藤田 裕一郎
(岐阜大学・名誉教授)

幸い県下には、いま手をこまねいていると身近な水辺の環境がどんどん貧弱になり、豊かな生態系は失われてしまうとの危機感を強く抱かれた先人が多くおられて、公共事業の場合に「自然共生」への取り組みを広げる目的で、「自然共生工法の実践研究」、「実践研究の担い手の育成」、「自然共生への意識変革」という本会の活動が始められました。以来、このパンフレットで紹介していますような勉強会や発表会の開催、手作りの環境修復の試み、新たな工法の実践研究などを広く協働して地道に継続しています。

自然には、人びとに生命を支える食べものや心の潤いをもたらしてくれる優しさのある反面、昨年、一昨年とわが国を襲った大風水害などの天変地異ばかりではなく、本年の世界に蔓延した新型コロナウイルスによる未知の感染症も引き起こす、大変恐ろしい側面もあります。「自然との共生」への取り組みは、常にこの両面を持つ自然に畏敬の念を抱いて謙虚に進められるべきだと思います。豊かな降水を受止める広大な森林域を有し、そこから流れ出る大小の清流が多様な生物相と豊富な作物をもたらしている飛山濃水・山紫水明の岐阜県は、しばしば凄まじい風水害・土砂災害に、ときには激甚な地震災害に見舞われ、CSF(豚熱)に苦しめられたことも記憶に新しいところです。

岐阜県自然共生工法研究会は、自然の猛威に目を背けることなく、多種多様な生物相を支える水と緑に溢れた豊かな県土の自然を保全・復元し、次世代に引継いでいくという目標に向かい将来を見据えた活動を継続しているという気概をもって、法人179団体、個人1,320名の会員(2020年度当初6月1日現在)が努力を重ねている団体です。県内外の方々へ本会の存在や活動を知って頂けると幸いです。

皆様には、今後とも一層のご支援、ご協力を、またご意見やご要望を岐阜県自然共生工法研究会に賜りますようお願い申し上げます。

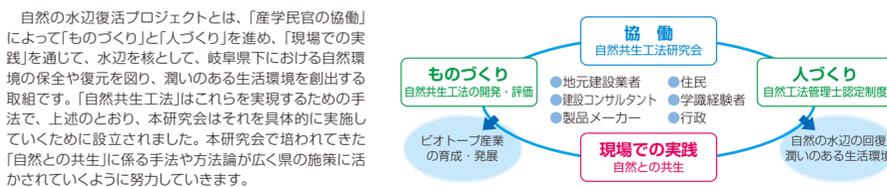
自然共生工法研究会設立の趣旨

自然環境に対する関心が高まる中、岐阜県においても産業界、学界、地域住民、行政の立場から自然との共生をテーマに様々な取り組みが進められています。

しかし、従来は相互の情報交換が不足していたり、十分な連携が取りにくい等、十分な効果がなかなか得られませんでした。このような状況を改善するためには、産学民官が連携して、同じ枠の中で問題意識を共有し、現場で実践していきける仕組みづくりが必要であり、既存の枠にとらわれない柔軟な組織が必要でした。このような状況を改善するためには、産学民官が連携して、同じ枠の中で問題意識を共有し、現場で実践していきける仕組みづくりが必要であり、既存の枠にとらわれない柔軟な組織が必要でした。多種多様な生物を育む自然豊かな岐阜県土の保全・復元を図り、次の世代にすばらしい県土を引き継いでいくために産学民官の協働による自然と共生した県土づくりを目指して設立いたしました。



「自然の水辺復活プロジェクト」と「自然共生工法」



「清流の国ぎふ」づくり

岐阜県内の豊かな森林から生み出される水は、全国有数の美しさを誇る川から海に通ずる清流となり、岐阜県民に様々な恩恵をもたらしてくれます。県では、この清流を「守る」「活かす」「伝える」を柱に掲げ、清流を後世に残していけるような「清流の国ぎふ」づくりを推進しています。

“3つの柱”と“10の施策”(研究会に關係する部分)

- ① 清流を守る**
 - ①生物が棲めるきれいな水を守る
 - ②自然と共生した川をつくる
 - ③「水みち」の連続性を確保する
 - ④水を蓄え、土壌が流出しにくい山をつくる
- ② 清流を活かす**
 - ⑤森・川から生まれる環境価値を活かす
 - ⑥森・川が育む豊かな自然環境を活かす
 - ⑦森・川から生まれる県産品を活かす
- ③ 清流を伝える**
 - ⑧清流を学び、次世代へ伝える
 - ⑨県民協働による流域活動に参加する
 - ⑩岐阜の清流を外内にPRする



©岐阜県 清流の国ぎふ・モニター #0367

研究会ではこんなことをやっています

通常総会・特別講演

各年度初めの6月に通常総会を開催し、総会後に自然共生に関する特別講演を実施しています。
令和2年度通常総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による開催に変更し、総会後の講演は開催を中止しました。

ボランティア長良川清掃活動

開催日 令和元年8月24日(土)
7:00～8:00

場所 長良橋上流左岸河川敷(岐阜市内)

参加人数 72名



■長良橋上流左岸の河川敷で、72名の参加をえて、実施し、約30袋のごみを回収いたしました。

植物生育環境勉強会

開催日 令和元年7月18日(木)

場所 伊吹山登山道
(スカイテラス駐車場～頂上)周辺
(滋賀県米原市上野)

参加人数 10名



■伊吹山における植物の生態について、伊吹山固有の植物の特徴、外来種の生育状況やその影響、登山道周辺の花畑を観察し、植物の生育環境について学びました。
参加者の方々からは
・雨は降っていましたが、様々な花を見ることができ、楽しくとても勉強になりました。
・伊吹山を登山しながら現地で植物の説明を聞くという講習に参加したことが無かったので、実際に現地で説明を受けると大変分かりやすいと思いました。色々勉強できてよかったです。
等のご意見・ご感想をいただきました。

魚類生息環境勉強会

開催日 令和元年8月2日(金)

場所 一級河川伊自良川(山県市小倉)

参加人数 11名



■今回の魚類生息環境勉強会は、一年を通じて水温が安定していて、上流域から下流域まで生息する様々な魚類等がみられる、伊自良川の富士橋付近で採捕及び同定調査の実習を行い、魚類調査のデータの取り方等について学ぶと共に、H29、30年度に行った調査結果と比較し継続調査の意義についても学びました。
参加者の方々からは
・伊自良川の魚類生息状況に興味があったため、とても良い機会をいただきました。
・いろんな種類の魚類の勉強になりました。エビ類が多くその理由が気になりました。
等のご意見・ご感想をいただきました。

令和元年度「清流の国ぎふ」づくり 自然共生工法写真コンテスト

募集期間 令和元年7月23日(火)～令和元年8月30日(金)

展示期間 令和元年9月6日(金)～令和元年10月3日(木)

展示場所 アクティブG、岐阜県こどもの国、岐阜県博物館、
多治見市学習館、飛騨市図書館

応募数 15作品



■岐阜県自然工法研究会では、県内各地で取り組まれている自然共生工法について、良い取り組みがなされている事例や、工法施工後の自然環境の回復・復元が良好な事例について、平成25年度から写真募集を行っています。令和元年度の応募作品は15作品あり、県内5圏域の展示会場では一般投票を行い、数多くの方から投票をしていただきました。また、受賞者の方々には、「清流の国ぎふ」づくり『自然共生』事例発表会において、表彰式を行いました。ご協力ありがとうございました。

令和元年度 女性優先 現地見学会

開催日 令和元年10月31日(木)

参加人数 27名

場所 現地見学1：牧田川 農業用サイフォン更新工事現場
(岐阜県大垣市上石津町一ノ瀬地内)
現地見学2：牧田川 田村頭首工魚道
(岐阜県大垣市上石津町前ヶ瀬地内)
現地見学3：梅谷川(岐阜県垂井町府中地内)
意見交換会：建設ICT人材育成センター研修室

協賛 (一社) 岐阜県建設業協会
(一社) 岐阜県特殊工事技術協会
(一社) 岐阜県測量建設業協会
(一社) 岐阜県造園緑化協会
(一社) 全国特定法面保護協会 岐阜事務所
(一社) 岐阜県建設コンサルタンツ協会
岐阜県コンクリート製品協同組合



■大垣市上石津町内の牧田川において水生生物の保全対策を実施した箇所、および、垂井町内の梅谷川において自然共生の視点を取り入れた災害復旧箇所を見学しました。見学後、新たな目線での自然共生の課題解決を目指し、感じたことや、対策を検討する上での着目点などが付いた点について意見交換を行い、自然との共生、環境の保全についての理解を共有するとともに参加者同士の交流を深めました。
参加者の方々からは
・たいへん勉強になりました。特に私たちが設計の段階で自然保全を念頭に置くことで、守れるものもあるということです。工事は必要だが、考え方を工夫することで自然破壊を回避する方法を知るために、このような見学会はまた参加したいです。
・今後も勉強会を希望します。若手の意欲があり、勉強を共に続けてゆきたい。
等のご意見・ご感想をいただきました。

令和元年度 魚道研究会 魚道研究WG 魚道現地調査

《大垣土木事務所管内》

開催日 令和元年10月23日(水)

場所 牧田川 田村魚道(大垣市 上石津町)

《恵那土木事務所管内》

開催日 令和元年10月24日(金)



■魚道研究会では岐阜県と協働して魚道カルテの改善と活用を図っており、活動の一環として、カルテを用いた魚道のモニタリング調査を実施しました。また、調査結果をまとめることで魚道の状況等を確認することができました。

各団体との共催・後援事業

1. 第7回「清流の国ぎふ」づくり「自然共生」事例発表会 (主催：岐阜県)

開催日 令和元年11月14日(木) 参加人数 133名

開催場所 ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール(岐阜市)

■自然共生に関する県内外の取り組み事例を「ハード部門(5事例)」と「ソフト部門(5事例)」に分けて発表を行う事例発表会と講演会を開催しました。

表彰

ハードの部

- 最優秀賞
テーマ：「コンクリートを使用しない工法による植生及び水際の回復事例」
発表者：岐阜県古川土木事務所 小林 和馬氏
- 優秀賞
テーマ：「北派川における新たな落差工の研究について」
発表者：岐阜県河川課 平野 湧也氏
- 最優秀賞
テーマ：「地域と目指す日本一のかわまちづくり」
発表者：岐阜県立岐阜農林高等学校
可児 亮二氏、加藤 博斗氏、高木 亜智氏、桑原 絢音氏

ソフトの部

- 優秀賞
テーマ：「水田魚道を活用した水田生態系の保全と稲作の両立を目指して」
発表者：岐阜県立岐阜農林高等学校
西垣 康博氏、大野 雄太郎氏、八木 悠介氏、飯沼 昇竜氏、橋本 聡氏



2. 岐阜県自然共生川づくり勉強会 (主催：岐阜県)

開催日 令和元年10月8日(火) 参加人数 18名

開催場所 大垣市情報工房 多目的研修室(大垣市)

■県では、自然と共生した川づくりを推進するため、平成22年度から河川を題材とした「自然共生川づくり勉強会」を実施しており、「緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり」における施策の1つである「豊かな森づくり・清らかな川づくり」を推進してきました。
本勉強会では、河川解析ソフト「iRIC」を使った実習形式の河川解析演習を行い、「誰でもできる河川解析」について学びました。



研究会の構成

理事会	部会連絡委員会
会長 藤田裕一郎(学) 岐阜大学 名誉教授	各部会長及び部会員1～2名
西條 好迪(学) (一財)自然学総合研究所 理事長	研究評価部会
森 誠一(学) 岐阜協立大学 教授	部会長 藤田裕一郎(学) 岐阜大学 名誉教授
寺町 茂(民) 岐阜協立大学 教授	副部会長 和田 清(学) (独)国立高専機構 岐阜工業高等専門学校 副校長
和田 清(学) (独)国立高専機構 岐阜工業高等専門学校 副校長	アドバイザー 中村 圭吾(官) (国研)土木研究所 上原研究員 兼自然共生研究センター センター長
川合千代子(民) 水環境もやい研究所	部会員 西條 好迪(学) (一財)自然学総合研究所 理事長
清水 佳子(民) 天神川を考える会	森 誠一(学) 岐阜協立大学 教授
寺町 茂(民) 環境省希少動植物種保存推進員 農林水産省環境相談員	原田 守啓(学) 岐阜大学 流域圏科学研究センター 准教授
各務 剛児(産) (一社)岐阜県建設業協会 評議員	堀 与志郎(官) 国土交通省 中部地方整備局 木曾川上流河川事務所 所長
安江 修平(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会 代表理事	丹羽 俊一(官) 国土交通省 中部地方整備局 越美山系砂防事務所 所長
市橋 政浩(産) (一社)岐阜県測量設計業協会 副会長	川村 直樹(産) (一社)岐阜県建設コンサルタンツ協会
青竹 寛子(官) 岐阜県 環境生活部 次長	安江 修平(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会 代表理事
野崎 眞司(官) 岐阜県 県土整備部 土木技監	大嶽 利彰(産) 岐阜県コンクリート製品協同組合 理事長
宗宮 裕雄(官) (公財)岐阜県建設研究センター 理事長	飯島 竜二(官) 岐阜県 県土整備部 建設政策課 課長
	鈴木宏一郎(官) 岐阜県 県土整備部 河川課 課長
	人材育成部会
	部会長 西條 好迪(学) (一財)自然学総合研究所 理事長
	副部会長 加藤 剛(産) (一社)岐阜県建設コンサルタンツ協会
	木呂子豊彦(学) 名古屋女子大学 非常勤講師
	菊 雅美(学) (独)国立高専機構 岐阜工業高等専門学校 准教授
	真鍋 昌伸(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会 自然共生技術委員会 委員長
	清水 佳子(民) 天神川を考える会
	川俣 裕行(官) 国土交通省 中部地方整備局 中部技術事務所 所長
	広瀬 隆男(官) 岐阜県 県土整備部 技術検査課 課長
	宮島 雅広(官) (公財)岐阜県建設研究センター 副理事長
	企画啓発部会
	部会長 各務 剛児(産) (一社)岐阜県建設業協会 評議員
	副部会長 矢頭 善次(産) (一社)岐阜県測量設計業協会 建コン技術委員会 副委員長
	川合千代子(民) 水環境もやい研究所
	松野 守男(産) (一社)岐阜県特殊工事技術協会
	大久保清之(産) (一社)岐阜県造園緑化協会 事務局長
	栗野 靖浩(産) (一社)全国特定法面保護協会 岐阜県事務所 所長
	今村 穂積(官) 岐阜県土木用ブロック協会 副会長
	野崎 眞司(官) 岐阜県 県土整備部 土木技監
	岩田 秀樹(官) 岐阜県 環境生活部 環境企画課 課長
	魚道研究会
	部会長 森 誠一(学) 岐阜協立大学 地域創生研究所 教授
	副部会長 藤井 孝文(産) 大日コンサルタンツ(株)
	増田 治雄(産) 揖斐川工業(株)
	奥田 好章(産) (株)ユニオン
	若園 陽司(産) (株)テイコク
	林 哲郎(産) (株)三進
	馬淵 亨(産) (株)山辰組
	平田 剛(産) (株)興栄コンサルタンツ
	渡部 健(産) 丸栄コンクリート工業(株)
	鷲見 拓哉(産) 大同コンサルタンツ(株)
	事務局 (公益財団法人 岐阜県建設研究センター内)